

Mint Club



造幣局

22号
ミントクラブ

2007年ユニバーサル技能五輪国際大会記念千円銀貨幣 打初め式 挙行



表紙図柄の説明

第11回 IAAF世界陸上競技選手権大阪大会が、8月25日から9月2日までの9日間、大阪・長居陸上競技場で開催されました。

造幣局では、大会入賞者の胸に燐然と輝いていた「金・銀・銅の入賞メダル」を、(財)IAAF世界陸上2007大阪大会組織委員会からの依頼を受けて製造しました。

入賞メダルの仕様

区分	金メダル	銀メダル	銅メダル
材質	純銀	純銀	青銅
寸法	直径 60 mm		
重量	約162g	約160g	約130g
仕上げ方法	金厚メッキ仕上げ	銀いぶし仕上げ	ブロンズ仕上げ
表面の大会エンブレム部分	七宝入り(赤)	七宝入り(青)	七宝入り(緑)



8月23日(木)、造幣局構内において、尾身財務大臣及び残間2007年ユニバーサル技能五輪国際大会総合プロデューサーをお招きして、打初め式を行いました。

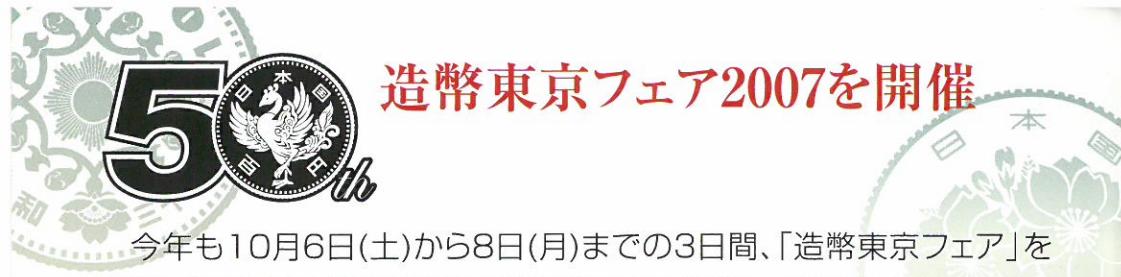
記念貨幣の図柄(原寸大)



表面



裏面



造幣東京フェア2007を開催

今年も10月6日(土)から8日(月)までの3日間、「造幣東京フェア」を造幣局東京支局(東京都豊島区)構内で開催(9時~17時)します。

今年のフェアは、昭和32年(1957年)に100円銀貨幣が発行されてから50周年となる「100円貨幣」にスポットを当てた展示をメインとして、貨幣、勲章等の製造工程等を実物やパネルにより、わかり易く紹介するほか、七宝体験など、いろいろと楽しめるイベントコーナーも企画しております。また、開催を記念した貨幣セットの販売も行います。

お近くにお越しの際には、是非お立ち寄りください。

【昨年の造幣東京フェアの模様】



工場見学



造幣東京博物館内展示風景



【造幣局東京支局(東京都豊島区東池袋4-42-1)案内図】



交通機関

都電荒川線「向原」駅より徒歩5分、JR「大塚」駅南口より徒歩10分
東京メトロ有楽町線「東池袋」駅4番出口より徒歩8分

東京メトロ各線・西武池袋線・東武東上線・JR「池袋」駅東口より徒歩15分

問合せ先

造幣局東京支局総務課(文書広報担当) TEL 03-3987-3521



Welcome to the World's Fair of Money 世界貨幣フェア 出展

8月8日(水)から12日(日)までの5日間、アメリカ貨幣協会主催の「世界貨幣フェア」が、ウィスコンシン州ミルウォーキーで開催されました。

同フェアは、今回で116回を数える歴史ある世界最大規模の貨幣フェアであり、アメリカ主要都市の持ち回りで開催されているものです。

造幣局もブース出展を行い、貨幣セットや金属工芸品の販売を行うとともに、米国を始め世界各国の貨幣ディーラーと商談を行いました。

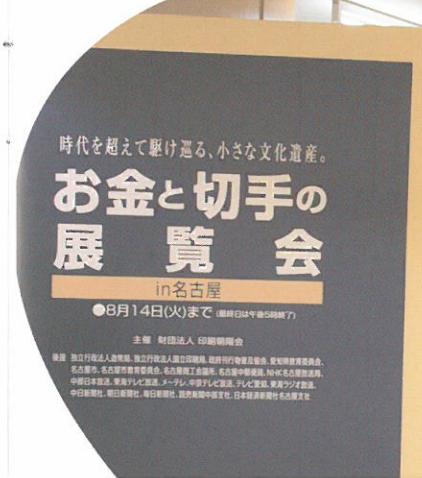
海外における造幣局製品の紹介に大きな成果を上げた5日間でした。

第30回 お金と切手の展覧会(in名古屋)に出展

毎年開催されている「お金と切手の展覧会」が、今年は、8月9日(木)~14日(火)の6日間、(株)丸栄 スカイル(名古屋市中区)において開催されました。

造幣局ブースには、皇朝十二銭、天正長大判及び明治の貨幣などの展示のほか、造幣事業の紹介コーナー及び体験コーナー(『金塊・銀塊に触れてみよう』など)を設け、多くの皆様に喜んでいただきました。

また、会場内で、開催を記念した貨幣セット、金属工芸品の販売を行いました。



山梨中銀金融資料館

前号のミントクラブ第21号にご寄稿いただいた山梨中銀金融資料館館長中込力氏に、今回は、甲州金や天正大判などを展示している「山梨中銀金融資料館」について紹介していただきました。

山梨中銀金融資料館は、山梨中央銀行創立50周年事業の一環として、平成4年(1992年)に開館しました。当資料館は、「山梨中央銀行史」、「貨幣史」、「テーマ展示(県内銀行史)」の3つのゾーンで構成されています。

それでは、各ゾーンの展示資料のうち、特徴的なものをいくつかご紹介します。

まず、「山梨中央銀行史」のゾーンには、前身の「山梨第十国立銀行」に始まる明治期から、「山梨中央銀行」の昭和期までの資料を展示しています。なかでも、第十国立銀行の創業書類、安田善次郎の書簡、本邦最古の貯金通帳「興産金預り通(あずかりかよい)」、発行紙幣・使用印章・発行紙幣記入帳などが特筆されます。

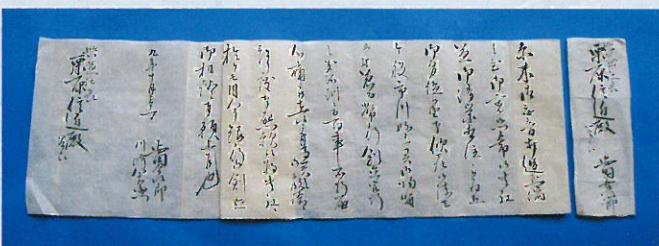
明治7年(1874年)設立の銀行類似会社「興益社」は、国立銀行条例改正に伴い、明治10年(1877年)、全国で9番目に国立銀行設立を申請しました。当時、政府は認可順に数字をもって行名としていましたので、「第九」となるところでした。しかし、「九」は苦に通ずるとして、次番の「十」をとて「第十国立銀行」としたい旨を願い出て、許可されました。同年2月付大蔵卿大隈重信朱書きの「内認可指令書」は、官尊民卑の時代にあって、設立認可を得るまでの労苦を偲ばせています。

こうした創業前夜、初代頭取栗原信近に一通の手紙が届きました。差出人は、のちの安田財閥の創始者安田善次郎と川崎八右衛門です。第三国立銀行の設立準備をしていた彼らが、国立銀行創業の事務に精通し、中央財界に人脉を持つ栗原信近に設立の指導と助言を求めたものです。

これが縁となり、安田善次郎と川崎八右衛門は、第十国立銀行創業当初から唯一の県外株主として名を連ねました。



大蔵卿大隈重信朱書きの「内認可指令書」



安田善次郎が栗原信近に送った手紙

明治10年4月に開業した第十国立銀行は、極めて特異な預金を取りました。それは、興益社の時代に取扱いを開始した「興産金」という少額貯蓄預金です。少額な預金でも糾合すれば、十分殖産興業の資金になるという考えに基づき、国立銀行転換後もこれを継承しました。政府は、明治8年に「駅逕貯金ノ法」を設けて貯蓄を奨励しましたが、民間では、第十国立銀行が全国の国立銀行に先駆けて貯蓄預金を取りました。このとき発行された通帳が「興産金預り通」で、わが国で最も古い貯金通帳といわれています。

全国各地に153行設立された国立銀行は、資本金の8割まで紙幣を発行しました。国立銀行は政府から行名、所在地押捺済の紙幣の下付を受け、表面に記番号、頭取および支配人署名・印を、裏面には発行台帳に重ねて割印を捺しました。第十国立銀行では、明治10年から12年までに、総額20万円、1・2・5・10・20円の5種類、合計9万7千枚余の紙幣を発行しました。全て手作業での発行であり、展示してある発行紙幣・使用印章・発行紙幣記入帳は、往時の想像を絶する繁忙さを物語っています。



山梨中銀金融資料館
中込 力 館長



興産金預り通



発行紙幣・使用印章・発行紙幣記入帳

次の「貨幣史」のゾーンでは、貨幣の歴史が一目でわかるよう、内外の貨幣類を体系的に展示しています。ここには、貝貨・布幣・刀幣・半兩錢・貨泉などに代表される古代中国貨幣を展示しています。また、日本の貨幣については、和同開珎に始まる皇朝十二銭、前号で紹介した甲斐武田氏の甲州金、豊臣秀吉の天正大判などから現行通貨までを展示しています。



山梨中央銀行史ゾーン



貨幣史ゾーン



テーマ展示ゾーン

最後の「テーマ展示(県内銀行史)」のゾーンでは、明治期から昭和期にかけ山梨県に数多く設立された銀行を紹介しています。山梨県内の銀行数は、明治34年(1901年)で最多の72行となり、全国で7番目の多さでした。明治初期から豪商・豪農への資本集中や土地集積が進み、これが銀行設立を促す要因ともなりました。この他、明治20年代後半から、在京の鉄道、電気、ガスなど多くの事業の経営を支配した「甲州財閥」と呼ばれた人々も紹介しています。

現在、山梨県では、NHKの大河ドラマ「風林火山」の放映に併せ、『甲斐の国風林火山博』を開催しています。多くの皆様のご来県とともに、山梨中銀金融資料館へのお立寄りをお待ちしています。

【参考文献】・「明治財政史」第12巻 明治財政史編纂会 昭和47年 ・「図録日本の貨幣7」 日本銀行調査局編 昭和48年
・「創業百年史」 山梨中央銀行 昭和56年

当館案内図



入館料：無料

開館日：日曜日～木曜日
(但し、祝日・12月29日～1月4日を除く)

開館時間：9時～16時(17時閉館)

交 通：JR中央線甲府駅(南口)から徒歩15分

所在地：〒400-0032
甲府市中央二丁目11番12号
TEL. (055) 223-3090
FAX. (055) 223-3091

ホームページ：<http://www.yamanashibank.co.jp/siryo.html>

※この販売予定は、変更することがあります。

通信販売

受付開始時に、DMでお知らせします。



- 平成20年銘通常ブルーフセット(年銘板有) 7,500円
同上 (年銘板無) 7,350円

(写真は平成19年銘のものです)

- 国際交流をテーマとするブルーフセット 13,000円



- 2007セントラルリーグ優勝記念セット 2,200円
- 2007バシフィックリーグ優勝記念セット 2,200円

(写真は2006年のものです)



- 世界文化遺産セット(石見銀山) 1,900円



通年販売

造幣局構内ミントショップ、オンラインショップで販売中。
電話でも受付中。(06-6351-2626)



- 平成19年銘ジャパンセット 1,900円



- 平成19年銘記念日セット 2,000円

造幣博物館所蔵・外國章牌紹介 21



A | B



A. スレイマン一世歿後四百年記念碑、表。青銅。
直径35.95mm。重量28g。暗灰色の煮込仕上。

B. 全左、裏。イスタンブール(舊コンスタンチノープル)に在るスレイマン一世のモスク(イスラム教寺院)の全景。

此の聖堂はスレイマニエ・ジャアミ(ジャアミは大寺、大聖堂の意)と呼ばれてゐる。下部弦月形部に「SULEYMANIYE」の文字。

此のモスクはスレイマン一世の發願の下に、オスマン朝トルコの代表的建築家シナン(Mimar Cinan, 1489~1588)の設計により、ビザンチン建築のハギア・ソフィア教會を模して建てられた。(ハギア・ソフィアは六世紀前半にキリスト教會として建てられたものである。)

ソフィア教會と同様に中央に大圓蓋を設け、その重量と壓力を、次々と外側の半圓蓋と小圓蓋に送り、方形の大壁で受止め、内部に大空間を作るといふ優れた構造を採ってゐる。前方に回廊を以て囲んだ中庭があり、イスラム教の約束により四基の尖塔(ミナレット)を具へてゐる。此のモスクの周圍に病院、學院、スレイマン一世の墓等が附屬してゐる。

此の裏は構圖、レリーフとも中々優れてゐる。

(元工藝管理官 松岡隆範 記)

當博物館が所蔵するトルコの章牌としては唯一のものである。

(本稿は、筆者の意向を尊重して筆者の表記をそのまま掲載しています。)

国宝章牌『法隆寺』を販売

国宝は、世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいない国民の宝たるものであるとして国が指定しているものです。このたび販売する国宝章牌は、貴重な国宝及びそれに付随する文化財をコンセプトとして製品化したもので、今回は寺院として最多の国宝、多数の重要文化財を所有している法隆寺を題材としました。

章牌の表面は、中央に西院伽藍内にある世界最古の木造建築である「金堂」(国宝)と日本最古の「五重塔」(国宝)を、それを取り囲むように西院伽藍中門の左右に立つ「金剛力士像」(重文)をレリーフ(浮き彫り)で表現しています。「金堂」と「五重塔」の流麗なラインと、「金剛力士像」の力感、量感を味わっていただけたことだと思います。また、裏面は、同寺所有の「橘夫人厨子」(国宝)の右扉裏に描かれている「勢至菩薩像」を線彫りで表現しています。

図柄は原寸大のイメージ図で商品とは多少異なります。

白金



表面



裏面

材質：純白金 (造幣局品位証明刻印入り)

直径：35mm

重さ：約48g

厚さ：約2.3mm

その他：化粧ケース入り

販売価格：380,000円 (税・送料込み)

販売予定数：300個 (お申し込み多数の場合は、先着順となります。)

申込要領

商品種別	『法隆寺』(白金)	『法隆寺』(銀)
申込数	お一人様3個以内	申込数の制限はありません。
申込期限	平成19年10月22日(月)(消印有効)	
申込方法	同封の申込はがきでお申し込みください。	
発送時期	払込用紙を、平成19年10月下旬頃から順次発送いたします。 商品は、平成19年11月中旬頃から順次発送いたします。 なお、お申し込み状況によっては、商品のお届けが12月下旬となる場合があります。	払込用紙を、平成19年10月下旬頃から順次発送いたします。 商品は、平成19年11月中旬頃から順次発送いたします。 なお、お申し込み状況によっては、商品のお届けが12月下旬となる場合があります。

※造幣局品位証明刻印(ホール・マーク)について

造幣局では、貴金属製品の製造業者又は販売業者からの依頼に応じて、貴金属製品の品位試験を行い、この試験に合格したものに、"JQA"等の品位証明記号を打刻してその品位を証明しています。

この証明記号を、通称「ホール・マーク」といい、一般の方々からの信頼も厚く、貴金属製品の取引の安定と消費者保護に貢献しています。



発行所 独立行政法人造幣局
〒530-0043 大阪市北区天満1丁目1番79号
造幣局ホームページ <http://www.mint.go.jp/>
編集兼発行 事業部販売事業課顧客サービス室
電話 06(6351)6928
平成19年9月26日発行(第22号)

このミントクラブはエコマーク商品に認定された再生紙を使用しています



表面



裏面

銀



Japan Mint